

平成30年度 小学校道徳科の指導の重点

【本県の課題】

- ・学習指導要領に示された道徳科の特質を踏まえていない授業。
- ・主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや、読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導。

【指導の重点】

- ・「何について考えさせ、何を気付かせたいのか」を明確にした指導観をもつこと。
- ・「考え、議論する道徳」の実現に向けた指導方法の工夫改善を図ること。
- ・組織的・計画的な評価方法の工夫改善を図ること。

「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業づくりの流れ

明確な指導観をもつこと

道徳科のねらい（道徳的価値）を踏まえ、道徳科の授業で児童に**何について考えさせ、何を気付かせたいのか**を明確にすること。

*指導観は、価値観（ねらいとする道徳的価値について）、児童観（児童の実態について）、教材観（教材について）の3つの要素から成り立つ。

価値観

・ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつ。
◆道徳の内容を理解する。

児童観

・明確な価値観に基づいて日頃どのような指導を行い、その結果として児童にどのようなよさや課題があるのか、その上で、**本時で考えさせたこと、学ばせたいことを明らかにする。**
◆日頃の道徳教育を振り返る。

教材観

・授業者の明確な価値観、児童観をもとに、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにする。
◆指導の意図を明確にした教材活用、学習展開

◇指導観は、学習指導案において「主題設定の理由」として示されることが一般的です。

本時のねらい

中心発問

指導方法の工夫

発問構成
役割演技
ワークシート 等



◇指導過程、指導方法、教材・教具等の工夫は、目的ではなく手段である。

「考え、議論する道徳」の実現に向けて大切にしたいこと

自己を見つめる

(自分のこととして、
自分との関わりで考える)

多面的・多角的
に考える

道徳的諸価値
の理解

を基に

自己の生き方
についての
考え(思考)

を深める

道徳性を養うために行う道徳科における学習

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習

積極的に受け止め、励ます個人内評価として行う道徳科の「学習状況及び道徳性に係る成長の様子」

観点別評価や他の児童との比較ではなく、個人内評価として見取ったことを記述により表現する評価。個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえ、道徳科の学習を通じて、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めようとしているかどうか注目する。

◇「大きくくり」とは、学期や年間といった期間を表す。

考え

「主体的な学び」
「対話的な学び」

議論
する

自分との関わりで捉え

多面的・多角的に考える

教師の明確な意図により「深い学び」へと向かう

◇「熊本の心」や「つなぐ～熊本の明日～」等を活用した授業の公開や地域の人々の参加・協力等、家庭や地域との連携による道徳教育の推進を図りましょう。